

金蘭千里中学校・高等学校 御中

（お詫び）金蘭千里中学校様自然研修中におけるバストラブル事案について

日頃よりお世話になり誠にありがとうございます。この度は、弊社バス運行において高速道路のインターランプウェイ上で後退する事案ならびに経路を誤り高さ制限バーに接触する事案を発生させ、生徒の皆様および保護者の方、学校関係者様に多大なるご迷惑をお掛けし深くお詫び申し上げます。あわせて、概要につきまして以下の通りご報告いたします。

○発生日 令和8年10月7日（水）および10月8日（木）

○運行会社 北鉄白山バス株式会社

○乗務員 年齢64歳（勤続19年8か月） 事故歴なし

○概要

10月7日（水）

午前9時27分頃、長野自動車道松本インターより安曇野方向へ進行するべきところ、分岐部分で道を誤り東京方向へ進行してしまい、誤りに気が付き約50m進んだ地点で停止。本来であれば安全を確保した場所で運行管理者へ報告し、次のインターまで走行したうえでUターンするべきところですが、その場でバスを約50m後退させるという重大インシデントとなる事案を惹起いたしました。本事案の発生について乗務員は運行管理者および同一行程の他の乗務員への報告を怠ったため、また先行車両・後続車両とも間隔が開いていたことから他車両の乗務員も本事案について確認することができず、社として事案を把握することができませんでした。そのため、当該乗務員への指導および交代乗務員の派遣等、安全を第一に考えた対策を講じることができませんでした。

10月8日（木）

午後5時41分頃、北陸自動車道高岡砺波スマートインターを下りて宿泊ホテルへ向かう際、経路を誤認したことにより、本来走行するべき富山県道40号線ではなく、一つ手前の道路を走行し、高さ制限バー（3.6m）にバス屋根部分を接触させる事案も惹起いたしました。本事案についても運行管理者への報告を怠り自己判断で後退し、終業点呼の際に後続バスの乗務員より運行管理者に報告があり発覚に至ったものです。管理者は、お客様・関係者様・乗務員のけがの有無の確認と、車両および高さ制限バーの損傷有無について確認するとともに、北陸鉄道貸切営業部を通じてJTB様へ報告をいたしました。また、全乗務員に対して接触事案について情報共有を行い、より慎重な運転を行うこと、事前の経路確認を複数回行うことで経路間違いを防止することを指示いたしました。

10月9日（金）

午後2時頃、金沢駅にて弊社および北陸鉄道担当者の2名が学校様およびJTB様へ8日に発生しました接触事案のお詫びとご説明を行いました。結果として接触による車両への損傷はありませんでしたが、生徒様・学校関係者様にお怪我をさせてしまいかねない事案であり、あらためて深くお詫び申し上げます。本来であれば7日に松本インターで発生した後退事案についてもお詫びを申し上げるべきところ、この時点では社として事案の把握に至っておりませんでした。

10月13日（火）

午前、北陸鉄道のホームページお問い合わせ欄に、生徒の保護者様から後退事案についてご指摘のメールをいただきました。直ちに当該乗務員への聴取やドライブレコーダーの映像から事実確認を行い、後退事案が発生していたことを同日中に確認いたしました。

10月14日（水）

後退事案について長野県高速道路交通警察隊および北陸信越運輸局石川運輸支局へ報告をいたしました。

○発生原因

日頃より実施しております乗務員教習において、ヒューマンエラー発生時の対応マニュアルとして、自動車専用道路において経路を誤った場合は、安全を確保したうえで運行管理者へ報告を行い、次のインター等で下りて元の経路に復するよう繰り返し指導をいたしておりましたが、当該乗務員は事案の発覚を恐れ自己判断で行動し、重大事故に繋がりがねない事案を惹起いたしました。当該乗務員の認識が、お客様の生命を預かるバスドライバーとして著しく欠けていたものであり、弊社の教育体制が不十分であったことが発生原因と考えております。また、以下の通り再発防止に努めてまいります。

○再発防止策

- ・当該乗務員の乗務を停止し、法令順守と安全意識について徹底した再教育を実施いたします。特に、報告を怠った点と自己判断で行動した点については、長期的な教育を行ってまいります。
- ・10月15日以降、全乗務員に対し本事案についてドライブレコーダーの映像を使用しながら教育を行い、経路を誤らないためにできることは何か、万が一ヒューマンエラーを惹起した場合にとるべき行動と優先順位は何かを指導するとともに、本件について経路を誤った時点でどうすべきだったのかを集団で議論させ理解を深めるとともに、ヒューマンエラーおよび事故発生時の対応マニュアルについて再度確認を行います。（全5回実施予定、本日までに2回実施済み）
- ・出勤点呼時において、行程の確認をより詳細に行うこととし、乗るインターチェンジではどの方向に進行するのかを運行管理者から乗務員へ問い、正しい経路を理解しているか確認したうえで出庫させます。
- ・退勤点呼時において、異常の有無について確認を行っていましたが、報告義務に該当しない案件でも通常時と少しでも違和感がある事柄はすべて運行管理者へ報告するよう、乗務員全員と一人ずつ面談を行い、より緊密な情報共有が乗務員と運行管理者間で行える組織づくりを行ってまいります。（本日までに99名中25名と面談済み、貸切運転士は12名全員面談済み）

北鉄白山バス株式会社